

国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇小学校
教諭 〇〇 〇〇

1 日 時 平成21年9月〇日 (〇)

2 学年・組 第6学年〇組

3 育成を目指す言語能力

(1) 読むこと イ

・目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。

(2) 言語事項 (1) ウ(エ)

・語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと。

4 単元名 いろいろな言葉について調べよう 「言葉の意味を追って」

5 単元の目標を達成するための言語活動

○ 辞典作りの観点を読み取り、辞典を作ること。

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
言葉や辞典に関心を持って文章を読むとともに、身近な言葉を集めて辞典作りをしている。	文章の構成に注意して読み、辞典作りの難しさや辞書作りの観点について読み取っている。	語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持っている。

7 単元設定の理由

○ 児童の状況

・文章の構成 …6月に教材「イースター島にはなぜ森林がないのか」で、説明文では序論・本論・結論が基本的な構成であることや、問いの文章(段落)に対応する答えの文章(段落)を見つけることが大切なポイントであることを学習した。

・要約 …「イースター島にはなぜ森林がないのか」で、初めて要約の学習をした。キーワードを見つけ、制限字数(20～30字)で要約することには慣れてはきたが、定着するには到っていない。

・語感 …6月に教材「気持ちのよい話し方をしよう」で、相手や伝える内容に気を配った言葉づかいをすることを学習した。しかし、実際にその言葉が使われる際に、適切であるかどうかを感じ取ることはできず、努力を要する段階である。

○ 教材等の価値

・教材 …文章の読解を通して、その難しさや辞典作りの観点を知ることのできる教材である。
…文章の読解を通して、言葉の意味や使い方を改めて考えるきっかけの得られる教材である。

・言語活動 …辞典作りは、言葉の意味を誰にでもわかりやすく伝えることの難しさや大切さを実感することができたり、言語生活の見直しを図ったりすることのできる言語活動である。

8 児童の状況と教材等の価値などを踏まえた指導上の工夫

教材文が言葉に関する内容であることから、「辞典作り」を単元の言語活動に設定した。

教材文の読み取りは、「年表作り」を中心に行う。

○辞典作り …児童にとって「辞典作り」が必要感のもてる活動になるよう、小学校英語科との関連を図り、外国の人に日本の物や事柄を説明するための辞典を作らせる。

○意味調べシート…文章読解の時間を確保するために、事前に難解な言葉について意味を調べさせ、その一覧表を全員に配付しておく。

…各時間に全員で確認したい言葉を選び、授業中に辞書で調べさせる。

○音読 …音声化力を育てるため、授業の中に必ず音読の場面をつくる。

…要約するため一人に集中して読ませ、「一人読み」をしたり、長い文章の場合、緊張感を保って読ませるために「一文交代読み」をしたり、目的に応じて音読方法を変える。

○年表作り …辞典作りの観点が一目で分かるよう、広辞苑完成までの流れを年表にまとめる。

○要約 …年毎の出来事を要約(20字以内)させ、板書させたものを評価する中で、キーワードの確認をする。

…短くまとめるために、「誰が(何が)、どうした」に着目させる。

○話し合い …学び合いを生み出すために、個々の考えを持たせた上で、グループで意見交流させる。その後、全体発表させる。

…互いの意見を出しやすくするために、少人数グループでの活動を取り入れる。

○ICT活用 …要約指導の際の作業領域を確保するため、提示資料等はOA機器を活用して提示する。

9 単元の学習と評価の計画

次	時	学 習 活 動 (評価方法)	観 点		
			国語への 関心・ 意欲・ 態度	読 む 能 力	言 知 識 に ・ つ 理 い 解 て ・ の 技 能
一	1	・文章を通読し、学習の見通しを持つ。 (音読・ノート・発言)	○		
	2	・「けんだま」の説明を考え、その難しさの一端を経験する。 (ノート・発言)	○		
二	3	・文章の構成をとらえ、冒頭から国語辞典と広辞苑の特徴についての説明を読み取る。 (ワークシート)		○	
	4	・「広辞苑」が出版されるまでの流れや辞典作りの観点について表にまとめる。 (ワークシート)		○	
	7	○「広辞苑」はどのようにしてつくられたのか。 ○見出しの数がこれほど多いのはどうしてか。 本時 6 / 12			
	8	・読み取ったことをもとに、辞典作りの難しさや辞典作りの観点について分かったことをまとめる。 (ノート・発言)		○	
三	9	・辞典作り挑戦の見通しを持ち、グループごとに、どんな辞典を作るか話し合う。 ・見出し語の説明に必要なことごとについて考える。 ・分担して言葉を探し、見出し語の説明の観点を選んで「見出しカード」を作る。 (見出しカード・行動)	○		○
	10	・説明の観点をもらさないように気をつけて見出し語の説明を書く。			○
	11	・書いた文章を読み合い、友達の助言を参考にして説明がよく分かるように修正する。 ・「見出しカード」を分類し、載せる順番を決めて辞典を完成させる。 (見出しカード・アドバイスカード・行動)			
	12	・完成した辞典を読み合い、感想を伝え合う。 (ノート・発言・ふり返りカード)			○

*準備物・・・ワークシート、見出しカード

10 本時の目標 (読む能力 二次6時)

- キーワードを見つけ、再開された辞典作りの問題点を読み取ることができる。

11 本時の目標を達成するための言語活動

- 広辞苑完成までの年表を作る (キーワードに線を引き、グループで意見交流する)。

12 本時の学習展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 事 項	評 価 規 準 ・ 評 価 方 法
<p>1 前時までを振り返り、1953年の出来事の要約をする。 (P33L16 ~ P34L1)</p> <p>2 P31L11~P33L15を読む。 (⑫段落~⑬段落)</p> <p>3 辞典作り再開に立ちはだかった問題点を読み取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一斉読み。 ・ 20字以内に要約。 ・ 文末のキーワードを確認する。 ・ 必要な児童には、補助ワークシートを活用させる。 ・ 友達と意見交流させる。 ・ 板書させ、評価する。 ・ 原稿完成までに5年かかったことを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 二人組一文交代読み。 	
<p>辞典作りを再開した時に立ちはだかった問題は、いくつあったらうか。</p>		
<p>(1) 個人で読み取る。</p> <p>(2) グループで読み取る。</p> <p>(3) 全体で読み取る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>問題点</p> <p>現代かなづかい 新しい言葉の誕生</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>言葉のぎん味 見出し語の中にない言葉がある 説明を短くまとめる難しさ ものの名前や内容の変化</p> </div> <p>4 本時の学習をふり振り返り、次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーワードを探させ、教科書に線を引かせる。 ・ 「一つは」「もう一つは」に着目させる。 ・ 友達と意見交流をさせる。 ・ 児童の発言の機会を増やすため、少数意見から発表させる。 <p>C : キーワードを見つけやすくするため、^{四角}□_{抜き}の補助ワークシートを活用させる。</p>	<p>A : キーワードを見つけ、文章に即した根拠に基づいて問題点を指摘している。</p> <p>B : キーワードを見つけ、問題点を指摘している。 (ノート) (教科書) (発言)</p>

○音読 書かれた内容を読み取るためのすらすら読みを目標に、授業の中で音読練習（追い読み、一斉読み、一人読み、一文交代読み、たけのこ読み、指名なし音読など）をしてきている。読む声がまだ小さめの児童や、もいるが、読むことへの抵抗感は小さくなってきている。

○辞書引き 学年当初から机の横に国語辞典を準備し、どの教科でも、意味の分からない言葉が出てくるとその都度調べてきているので、辞書を引くことには慣れている。辞書を引く速さに個人差はあるが、全体的に速くなってきた。

○ 児童の状況

- ・文章の構成 … 6月の教材「イースター島にはなぜ森林がないのか」で、説明文では序論・本論・結論が基本的な構成であることや、問いの文章（段落）に対応する答えの文章（段落）を見つけることが大切なポイントであることを学習した。
- ・要約 … 「イースター島にはなぜ森林がないのか」で、初めて要約の学習をした。キーワードを見つけ、制限字数（20～30字）で要約することには慣れてはきたが、定着するには到っていない。
- ・語感 … 実際にその言葉が使われる際に、適切であるかどうかを感じ取る感覚があまり育っていない。

○ 教材等の価値

- ・教材 … 広辞苑完成までの苦労を文章から読み取ることで、辞典作りの際の観点を知らることができる教材である。
…教材を通して言葉に関する新しい視点を見だし、その働きや意味を改めて考えるきっかけ得られる教材である。
- ・言語活動 … 文章から読み取ったことをもとに身近な生活の中の言葉について自分達で「辞典」を作るという活動を通して、普段何気なく使っている言葉の意味を、誰にでもわかりやすく伝えることの難しさや大切さを実感し、言語生活の見直しを図ることができる。

○ 児童の状況と教材の価値を踏まえた指導の工夫

- ・要約 … 広辞苑完成までの流れや辞典作りの観点が一目で分かるように年表をまとめる。
…年毎の出来事を個々に要約（20文字）させ、板書させたものを評価する中で、キーワードの確認をする。
…「誰が（何が）、どうした」に着目することを指導する。
…漢字に読み仮名をふらなければ読めない児童（1名）や学習意欲が極端に低い児童（2名）がおり、キーワードを探すことが難しいので、事前に教科書に読み仮名を書き込んだり^{四角}□抜きの補助ワークシートを用意したりして支援する。
- ・音読 … 授業の中に必ず音読を入れ、読む回数を確保する。
…目的に応じて音読方法を変える。
- ・意味調べ … 難易な言葉が多く出てくるので、分担して意味を調べまとめたものを印刷し、全員に配付する。
…各時間に全員で確認したい言葉を選び、授業中に辞書で調べさせる。
- ・辞典作り … 外国の人に日本の物や事柄を説明するための辞典作りを課題として設定する。
- ・学び合い … 個々に考えた意見をノートにメモし、友達と意見交流する場面を設定する。その上で、全体での発表をさせる。
…辞典作りを行う際、互いの意見が出しやすい少人数グループでの活動を取り入れる。
- ・視聴覚機器 … 要約指導の際に黒板を広く使うため、提示資料等はOA機器を活用して提示する。